

2025年12月期第3四半期 決算説明資料

2025年11月14日

日本ホスピスホールディングス株式会社

(証券コード：7061)



1. 2025年12月期第3四半期決算概要

2. 当社グループの特徴（他社との違い）

TOPICS① 組織が整い稼動が改善・・・P3

TOPICS② 損益及び利益率が改善・・・ P4

連結売上高

10,361百万円

前年同期比 +16.8%

連結EBITDA

1,294百万円

前年同期比 △8.5%

連結経常利益

511百万円

前年同期比 △27.8%

従業員数

1,588名

看護師・介護士 1,342名
リハ、その他 246名
※2025年9月末日時点

入居者数

1,347名

※2025年9月末日時点

居室数

1,873室

※2025年9月末日時点

▶ 4月以降稼働は改善し、1日あたりの新規入居数が大幅に増加（＝営業力向上）

	前期末	1Q末（対前期末）	2Q末（対1Q末）	3Q末（対2Q末）
入居者数	1,087名	1,090名（＋3名）	1,235名（ ＋145名 ）	1,347名（ ＋112名 ）
居室数	1,609室	1,720室（＋111室）	1,799室（＋79室）	1,873室（＋74室）
期末時点入居率	67.5%	63.3%	68.6%	71.9%

▶ 1Qの失速、2Qからの施策とその効果

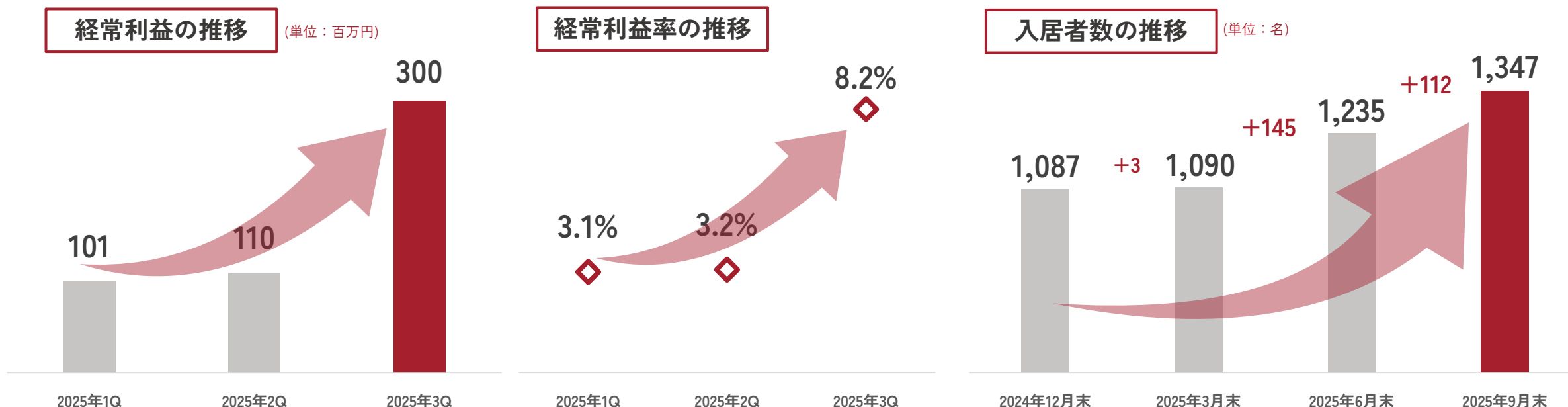
内容	効果
1Qより新たな事業責任者の下で新体制を発足したが、当社の課題である稼働に対する意識・営業力を弱める結果となってしまった。 2Qより事業責任者を交代し、あわせて経営的視点を持ち、かつマネジメント能力に優れた看護師等複数名をエリアマネージャー＆副エリアマネージャー（9月末で計7名）として、ユニット・施設を束ねるポジションに配置 営業部門（地域連携部）を強化し、9月末で所属人員は約30名に	● エリアマネージャー・副エリアマネージャーは、一般の医療スタッフから管理者、ホーム長、ユニットマネージャー職を経て現ポジションに至っており、生え抜き人材として、入居者の生活の質や適切なサービス提供等、現場を重視する当社の組織風土を深く理解しており、現場スタッフに対して説得力をもったマネジメントが有効に機能 ● 1日あたりの新規入居数が大幅に増加

1. 成長実現のための組織作り

営業組織、エリアマネージャー・ユニットマネージャ・本部サポート体制の構築は順調に進捗しており、一方で、その体制強化のための採用費及び人件費は増加・・・前年同期比+2億円（P7参照）

2. 四半期単位での損益・経常利益率の推移、及び入居者数の推移

前頁に記載したとおり2Qより稼働が回復し、四半期（3か月）単位での経常利益及び経常利益率が大幅に回復



会社や組織の成長には何かしらの経営力アップデートが必要で、
 ①開設数（居室数）増加 ②人員増加 ③マネジメントの試行錯誤等により、利益率が低下する時期があるが、
 1Qは①②③の全てにより利益率が低下、3Qはそれぞれの影響が緩和され利益率が回復

1. 2025年12月期第3四半期 決算概要

2025年12月期 第3四半期 連結業績実績

(単位：百万円)

	2023年12月期 第3四半期	2024年12月期 第3四半期	2025年12月期 第3四半期	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率 (%)
売上高	7,221	8,874	10,361	+1,486	16.8%
EBITDA	1,392	1,414	1,294	▲120	▲8.5%
営業利益	1,071	944	700	▲243	▲25.8%
経常利益	838	708	511	▲196	▲27.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	558	437	304	▲133	▲30.5%
1株当たり 四半期純利益 (円)	69.53	53.40	36.23	—	—
1株当たり配当 (円)	—	—	—	—	—

※百万円未満を切り捨てて表示しています。

影響額
(百万円)

解 説

2024年12月期 第3四半期 経常利益

708

- ①

2024年3Q時点で、
既に安定稼働に至っていた施設の「貢献利益差額」

▲34

28施設
※貢献利益差額・・・2024年3Q vs 2025年3Q
- ②

2024年3Q時点で、
立上げ過程にあった施設の「貢献利益差額」

+315

15施設
※貢献利益差額・・・2024年3Q vs 2025年3Q
- ③

2024年4Q以降（2024年12月までに）に、
新規開設した施設の「貢献利益差額」

▲73

5施設（2024年4Q：5施設）
- ④

2025年に新規開設した施設（＝現在立上げ過程にある）の
「開設準備コスト＆運営赤字額」

▲145

7施設
- ⑤

2025年4Q以降に新規開設する施設の「開設準備コスト」

▲23

4施設
- ⑥

本社・本部人件費の増加額

▲128

昨年2Qから、ユニット＆本部サポート制確立のため人員増加
- ⑦

採用費の増額

▲68

昨年4Qから今期3Qまで12施設を開設。採用費が増加
- ⑧

その他

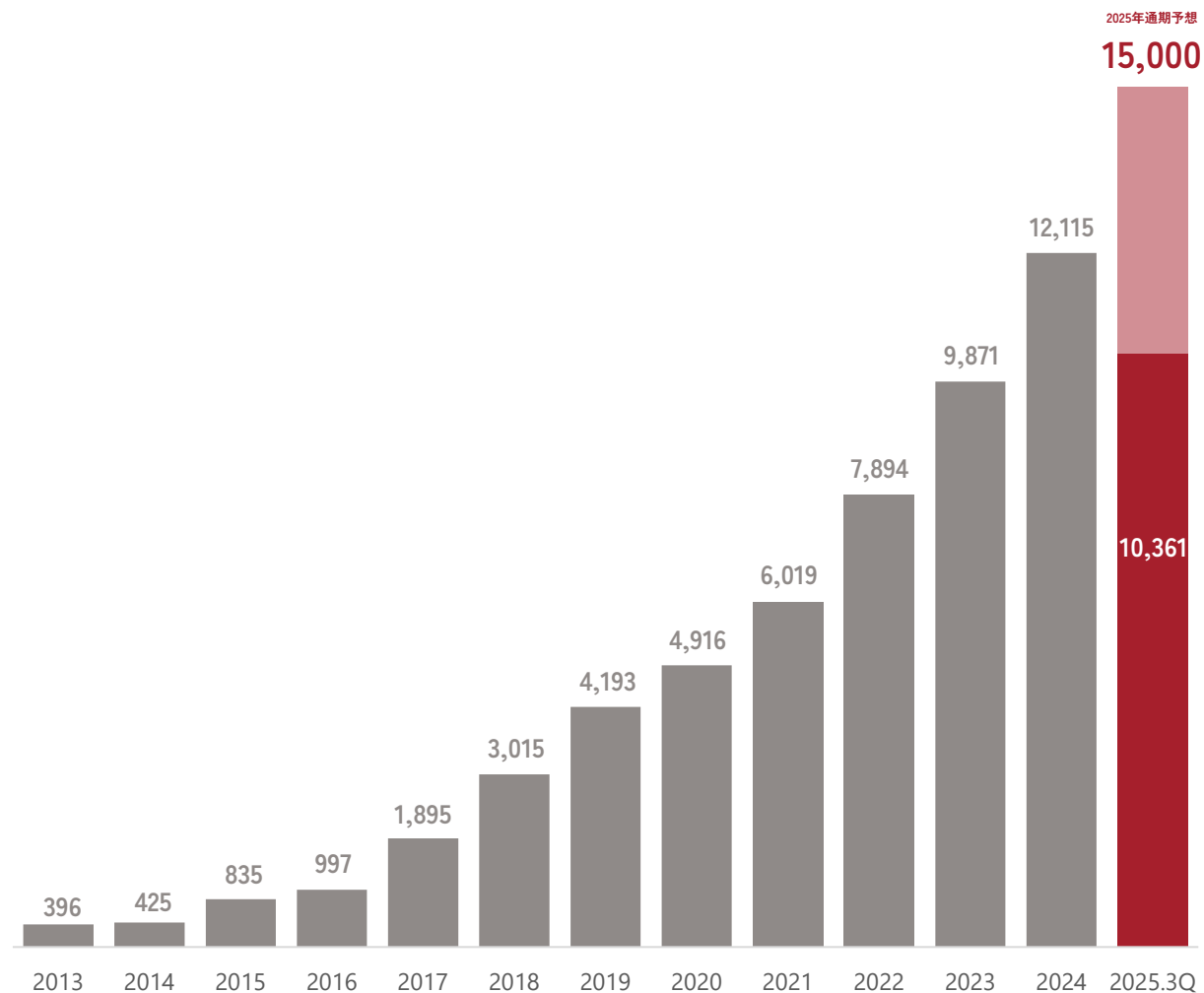
▲40

2025年12月期 第3四半期 経常利益

511

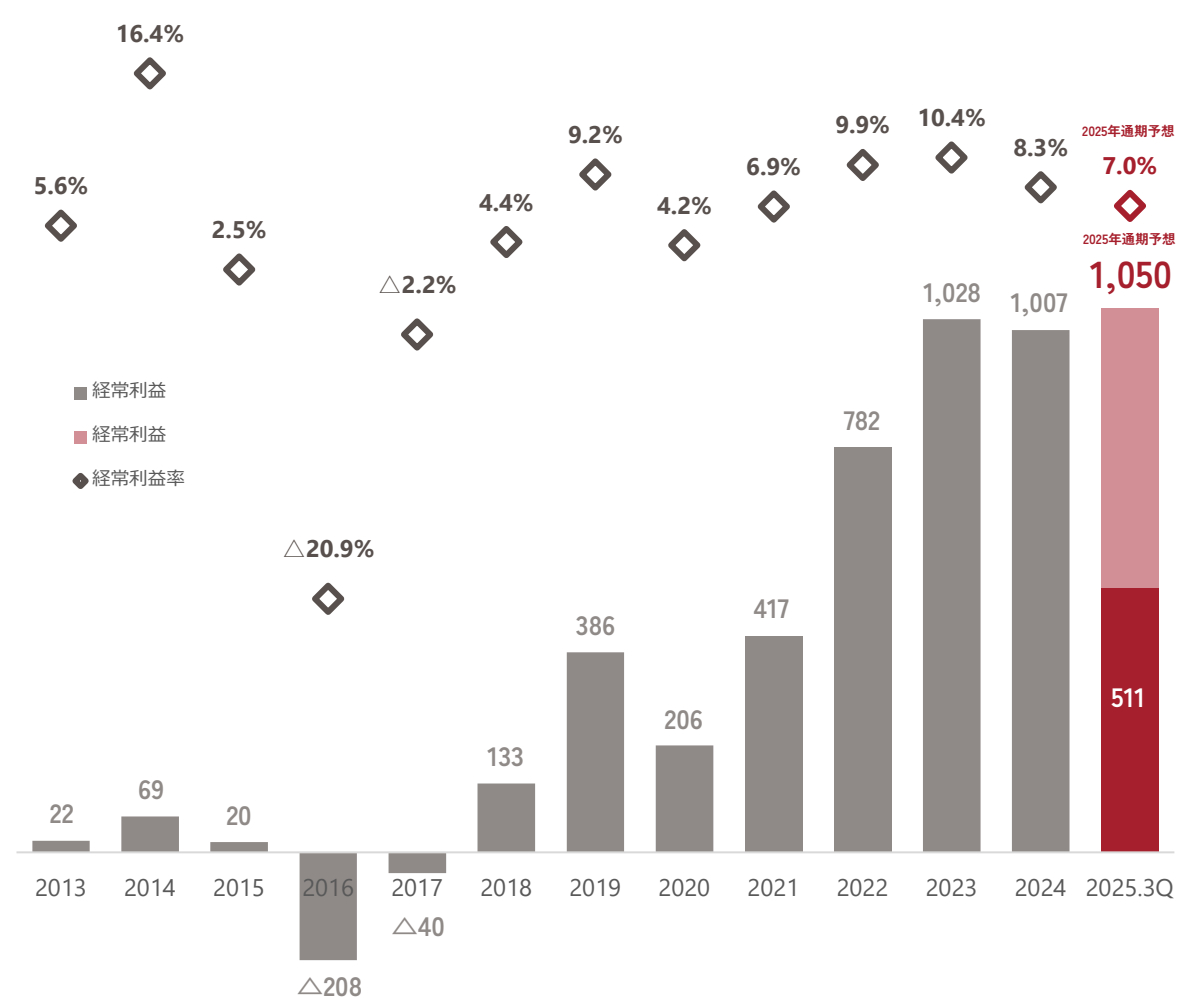
売上高の推移

(単位：百万円)



経常利益 及び 経常利益率の推移

(単位：百万円)

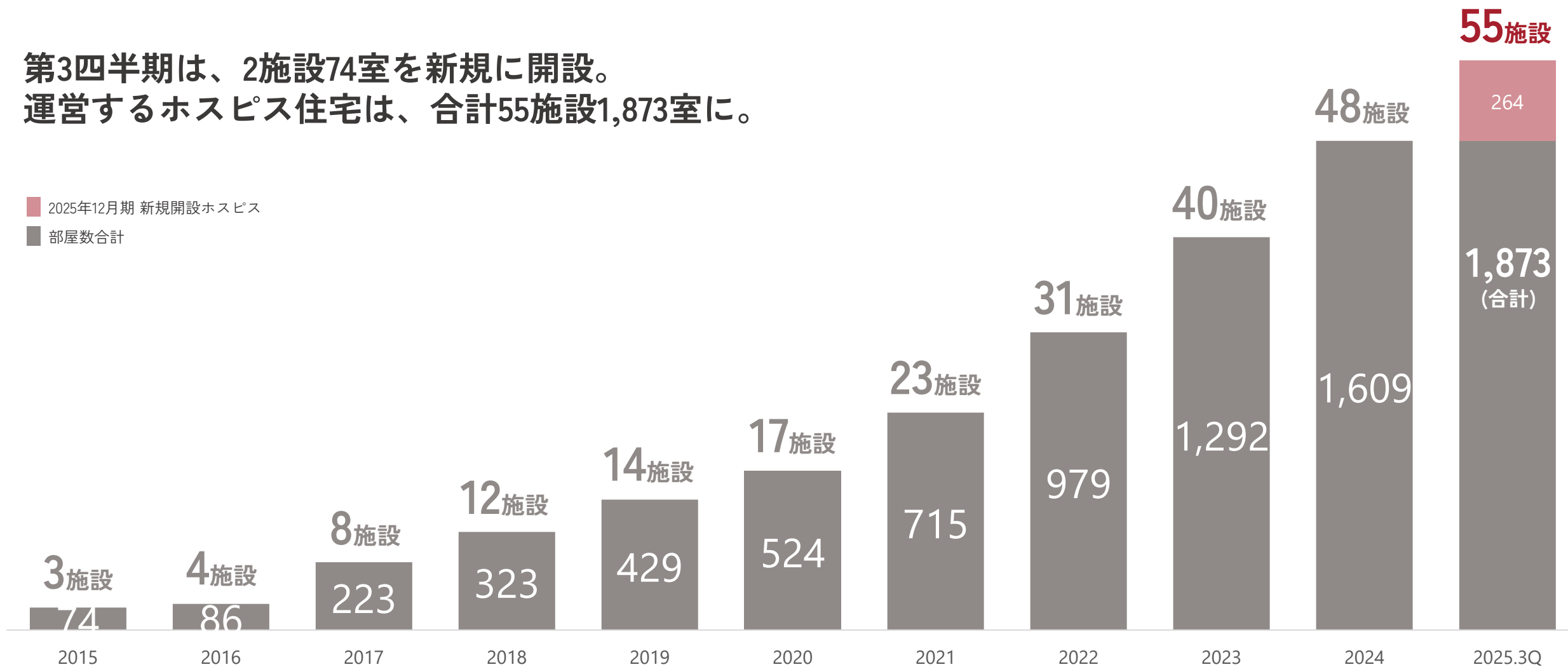


施設数・部屋数・平均入居率の推移

第3四半期は、2施設74室を新規に開設。
運営するホスピス住宅は、合計55施設1,873室に。

■ 2025年12月期 新規開設ホスピス

■ 部屋数合計



【平均入居率※の推移】

既存施設・・・開設後1年（12か月）超経過した施設	:	82.0% (通期)	79.7% (通期)	79.2% (通期)	77.4% (3Q)
新規施設・・・開設後1年（12か月）以内の施設	:	41.2% (通期)	37.3% (通期)	43.1% (通期)	47.6% (3Q)

※ 平均入居率 = 延べ入居室数 ÷ (提供可能室部屋数 × 日数)

バランスシートの状況

(単位：百万円)

	2024年12月期	2025年12月期 第3四半期	増減額	増減の主な理由
流動資産	3,787	3,810	+23	
現預金	1,526	1,341	▲184	固定資産の取得等による減少
売掛金	1,947	2,179	+232	
固定資産	14,523	13,944	▲578	自社所有不動産の売却（セール&リースバック）による減少
建物及び構築物	2,788	3,071	+282	
リース資産	9,111	9,111	—	
資産合計	18,310	17,754	▲555	
流動負債	2,989	2,973	▲16	
短期借入金	1,102	600	▲502	自社所有不動産の売却（セール&リースバック）により返済
未払費用	718	817	+98	
固定負債	11,874	11,077	▲797	
長期借入金	3,118	2,478	▲639	一年内返済予定の長期借入金への振替
リース債務	8,465	8,310	▲155	
負債合計	14,863	14,050	▲813	
純資産	3,446	3,704	+257	
負債・純資産合計	18,310	17,754	▲555	
自己資本比率	18.8%	20.9%	—	

※百万円未満を切り捨てて表示しています。

2025年12月期～2027年12月期 新規開設ホスピス

(2025年11月14日現在)



年度	名称	所在地	2024年12月期				2025年12月期			
			1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1Q	2Q	3Q	4Q
2024年	ファミリー・ホスピスタマプラーザハウス	横浜市青葉区	34室							
	ファミリー・ホスピス西新井ハウス	東京都足立区		49室	スギホールディングスとの共同開発					
	ファミリー・ホスピス国立ハウス	東京都国立市		34室						
	ファミリー・ホスピスさがみ野ハウス	神奈川県海老名市				36室	スギホールディングスとの共同開発			
	ファミリー・ホスピス東千葉ハウス	千葉市中央区				38室	スギホールディングスとの共同開発			
	ファミリー・ホスピス鎌ヶ谷ハウス	千葉県鎌ヶ谷市				38室				
	ファミリー・ホスピス北海道ボールパーク	北海道北広島市				37室				
	ファミリー・ホスピス堀之内ハウス	東京都八王子市				51室				
48施設 1,609室										
2025年	ファミリー・ホスピス日吉本町ハウス	横浜市港北区					38室	スギホールディングスとの共同開発		
	ファミリー・ホスピス上石神井ハウス	東京都練馬区					37室			
	ファミリー・ホスピス月寒東ハウス	札幌市豊平区					36室			
	ファミリー・ホスピス新柏ハウス	千葉県柏市						36室		
	ファミリー・ホスピス西葛西ハウス	東京都江戸川区						43室		
	ファミリー・ホスピス船橋ハウス	千葉県船橋市					スギホールディングスとの共同開発		38室	
	ファミリー・ホスピスOASIS桜山	名古屋市瑞穂区							36室	
	ファミリー・ホスピス神戸東灘ハウス	神戸市東灘区								35室
	ファミリー・ホスピス大宮ハウス	さいたま市中央区								44室
	ファミリー・ホスピス富士見ハウス	埼玉県富士見市						スギホールディングスとの共同開発		36室
	ファミリー・ホスピス札幌南ハウス	札幌市南区								36室
59施設 2,024室										
2026年						75施設 2,600室				
2027年						95施設 3,320室				

2. 当社グループの特徴（他社との違い）

当社グループの特徴（他社との違い）

	当 社（生活の場としてのホスピス）	他 社（利益・効率性重視）
①建物・住環境 （ハード面）	【住】 20～40室前後の規模感 【住】 ゆとりある居室面積 【住】 全居室にトイレを設置 （利用者の尊厳と生活を考慮） 【食】 施設に厨房を設け、調理師による調理 →入居者を第一に考えた生活の質へのこだわり	・ 50～80室前後の大型施設 ・ 最低限の広さの居室 ・ 居室にトイレの設置なし（オムツ前提） （オムツだとサービス提供者の都合で交換に伺える） ・ 施設に厨房はなし
②緩和ケア品質 （ソフト面）	【ケア】 必要な緩和ケアに基づいた訪問 【人材】 医療従事者の手厚い配置 【人材】 専門看護師（全国に約3千人：看護師の0.1%）や 認定看護師（全国に約2万人：看護師の1%）等の 上位グレード資格者が約10% 【人材】 リハビリ専門職の配置 →アセスメントに沿った緩和サービスを提供	・ 医療スタッフ一日あたりの訪問回数や加算等で保険収入の最大化を図り、家賃等を安価に設定 ・ 効率性を重視した人員配置 ・ 上位グレード資格者は僅か ・ リハビリ専門職の配置なし
②教育・研修体制	【教育】 ELNEC-Jの積極的な開催 （緩和ケアの教育プログラム） 【研修】 定期研修 （最新の緩和ケア事例の共有等） 【研修】 スギ薬局による薬剤研修 （多様な医療用麻薬の説明等）	・ 開かれた研修会がない ・ 上位グレード資格者が少なく、大規模な緩和ケア学会等でスピーカーとして登壇するような看護師は殆どいない

当社の考えるホスピス＝「生活の場としてのホスピス」



街がホスピスになる

住みなれた街
住みなれた家

大事な人と
親しい人たちと
そして、一人でも

全ての人が
人生の最期の時まで
安心して、楽しく
暮らせる社会

「街がホスピスになる」

当社の描く未来です

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

<お問い合わせ先>
日本ホスピスホールディングス株式会社

電 話 : 03-6368-4154

メール : ir@jhospice.co.jp